

## 月例経済報告等に関する関係閣僚会議 議事概要

---

(開催要領)

1. 開催日時：平成30年5月23日(水) 17:19~17:35

2. 場所：官邸4階大会議室

3. 出席者

安倍 晋三	内閣総理大臣
菅 義偉	内閣官房長官
茂木 敏充	内閣府特命担当大臣(経済財政政策) 兼 経済再生担当大臣
麻生 太郎	財務大臣
加藤 勝信	厚生労働大臣
松山 政司	内閣府特命担当大臣(科学技術政策) 兼 一億総活躍大臣
福井 照	内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全)
西村 康稔	内閣官房副長官(政務・衆)
野上 浩太郎	内閣官房副長官(政務・参)
杉田 和博	内閣官房副長官(事務)
越智 隆雄	内閣府副大臣
武藤 容治	経済産業副大臣
山田 修路	総務大臣政務官
長坂 康正	復興大臣政務官
杉本 和行	公正取引委員会委員長
横畠 裕介	内閣法制局長官
黒田 東彦	日本銀行総裁
二階 俊博	自由民主党幹事長
吉田 博美	自由民主党参議院幹事長
井上 義久	公明党幹事長
石田 祝稔	公明党政調会長

(説明資料)

○月例経済報告

○月例経済報告等に関する関係閣僚会議資料

○日本銀行資料

(菅官房長官) それでは、経済財政政策担当大臣から説明をお願いします。

(茂木大臣) 今月の月例経済報告について御説明する。

まず、配付資料の1ページ目をご覧ください。景気の現状についての総括判断は、「緩やかに回復している」として、先月から据え置いている。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

2ページ目の政策の基本的態度については、「骨太の方針2018」等を取りまとめていくことについて追記している。

次に、今月のポイントについて、3ページ目をご覧ください。GDPについて、先週発表された1次速報値では、2018年1－3月期の実質成長率は前期比マイナス0.2%、年率に換算するとマイナス0.6%となった。ただし、これまで8四半期連続で前期比プラス成長が続いた後のマイナスであり、「景気は緩やかに回復している」との見方に変わりはない。また、1－3月期の個人消費が横ばいとなっているが、この要因については天候不順による野菜価格の上昇といった一時的な要因、前期に増加したスマートフォン需要の反動減などがあつたとみられる。

4ページ目をご覧ください。2017年度を通してみると、実質成長率はプラス1.5%と3年連続のプラス成長となった。また、名目総雇用者所得は、1997年以来21年ぶりの高い伸びとなっている。海外経済についても、緩やかな回復が続いており、企業の景況感も堅調である。IMFやOECDの予測では、今後2年間の世界経済の実質成長率はプラス3.9%と堅調な成長になると予測されている。

経済動向の詳細については、中村統括官から説明させていただく。

(中村内閣府政策統括官) それでは、5ページを開いていただきたい。まず、個人消費の動向について、消費総合指数をご覧くださいと、本年1－3月期は横ばいとなっている。その要因についてみると、サービス消費は堅調であったが、天候等の一時的な要因で財の消費が減少している。一方で、足下の4月の動向であるが、百貨店販売額や新車登録台数が伸びている。また、景気ウォッチャーのコメントをみると、4月は天候にも恵まれるなど、景況感の改善がみられる。こうしたことから、消費については、先月同様、持ち直していると判断している。

6ページ目、住宅建設については、貸家を中心に弱含んでいる。また、公共投資は底堅く推移している。これらは先月と同様な動向である。次に、企業収益について、上場企業の決算をみると、2018年1－3月期は、前年比でプラス7.7%と増益が続いており、企業収益は改善している。増益に寄与した業種をみると、製造業では、輸送用機器、化学、医薬品など、また、非製造業では、情報・通信業、商社等の卸売業、不動産業などが増益となっている。

次に、7ページをお開きいただきたい。輸出は持ち直している。アジア地域向けについ

ては、情報関連財等で年初に一服感がみられたが、その後は増加に転じている。また、この情報関連財については、半導体の世界需要の見通しをみると、今後とも拡大が見込まれており、これがアジア向け輸出に追い風となることが期待される。次に、生産は緩やかに増加しており、先月と同様な動きである。また、設備投資については、GDPベースでみた水準感であるが、引き続き高い水準にあり、緩やかに増加をしていると判断している。

次に、8ページをご覧ください。雇用情勢は引き続き着実に改善している。3月の有効求人倍率は1.59倍、正社員でも1.08倍と高水準となっており、また、完全失業率は2.5%と低水準で推移している。このように労働需給が引き締まっているなかで、さらなる労働供給拡大の余地がどのくらいあるのかをみると、パートなどの短時間労働者のなかで、うち就業時間の追加を希望する就業者が177万人おり、また、現在は働いていないが、就業を希望している方が294万人となっており、女性を中心として労働供給拡大の余地がまだあるものとみられる。次に、消費者物価について、生鮮食品及びエネルギーを除く動きをご覧くださいと、足下で一時的要因もあって、やや低下したが、基調としては先月同様、このところ緩やかに上昇していると判断している。

次に、9ページをお開きいただきたい。アメリカ経済は着実に回復が続いており、2018年第1四半期のGDP成長率は、前期よりは鈍化し、前期比年率プラス2.3%となっている。この鈍化については、個人消費の伸びの鈍化が要因であるが、一方で、小売売上高の動きをみると、4月には堅調に増加している。また、雇用及び物価状況について、失業率は、約17年ぶりに4%を下回るところに来ている。こうした堅調な労働指標も背景として、コア物価上昇率も緩やかに上昇している状況になっている。

次に、10ページをお開き願いたい。中国経済は持ち直しの動きが続いており、グラフをご覧くださいと、2018年第1四半期のGDP成長率は、前期と同じ前年比プラス6.8%となっている。このなかで純輸出の部分がマイナスの寄与となっているが、これは、輸入の高い伸びによるものであり、輸出のほうも2桁ということで、堅調に増加している。また、消費の動向であるが、消費が全体の成長を支えており、自動車販売台数の動向をみると、昨年末までの自動車減税の終了があったが、減税終了後も堅調に推移している。また、雇用情勢についても改善が続いている状況になっている。

最後に、11ページをご覧ください。ユーロ圏では、景気は緩やかに回復。また英国では、景気回復が緩やかになっている。2018年第1四半期のGDPの成長率は、ユーロ圏で前期比年率プラス1.6%、英国ではプラス0.4%ということで、いずれも前期に比べると鈍化しているが、これについては、大寒波、あるいはストライキなどの一時的な要因による影響もあるとみられており、2018年、2019年の先の経済見通しについては、堅調な見通しが出ている。最後に、やや構造的な問題であるが、供給制約の問題を御紹介する。ドイツでは、企業の生産活動の制約要因として何があるかというアンケートに対して、労働力不足あるいは設備不足といった供給制約を挙げる企業が増えており、こういった面についても、今後の動向が注目される場所である。

内閣府からは以上である。

(菅官房長官) 次に、日本銀行総裁から説明をお願いします。

(黒田日本銀行総裁) 私からは、内外の金融市場の動向について御説明する。

まず、全体感を申し上げる。4月16日の前回会合以降の動きをみると、米国の長期金利が物価の先高観などから上昇するもとの、為替市場では、各国通貨に対してドル高の動きが続いている。株式市場では、米国株価が堅調な企業決算などを背景に上昇し、我が国を含む多くの国の株価も上昇している。

以下、個別の市場について御説明する。

資料の1ページをご覧ください。金利の動きである。米国の長期金利は、原油価格の上昇を受けた物価の先高観などから、前回会合以降、上昇している。ドイツの長期金利も上昇しているが、欧州の経済指標が市場予想を下回ったこともあり、上昇幅は小幅にとどまっている。我が国の長期金利は、引き続きゼロ%程度で推移している。

2ページをご覧ください。為替市場の動きである。前回会合以降、振れを伴いながらも、ユーロ安ドル高、ポンド安ドル高方向の動きとなっている。このように、米国の堅調な経済指標や金利上昇などを背景に、各国通貨に対してドル高の動きが続いている。円の対ドル相場も、円安ドル高方向で推移しており、足下110円程度まで円安が進んでいる。この間、円の対ユーロ相場は、欧州経済指標の市場予想比での下振れなどもあり、円高ユーロ安の動きとなっている。

最後の3ページをご覧ください。内外の株式市場の動きである。主要国の株価をみると、米国の株価は、堅調な企業決算や米中の通商政策をめぐる過度な懸念の後退などから上昇しているほか、欧州と英国の株価も上昇している。我が国の株価は、為替が円安方向に推移するなか、米欧の株価の動きにつれて上昇しており、直近では2万2,000円台後半で推移している。

日本銀行としては、内外の金融市場の動きや、それが我が国の経済・物価に与える影響について、引き続き注意して見てまいりたい。

以上である。

(菅官房長官) 以上の説明について、御質問があれば承りたい。

よろしいか。それでは、「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」を終了する。